

記録映画上映会＋ワークショップ

映画から考える地域と環境——『屋久島からの報告』をめぐって

現在、メディア文化研究では、戦後日本を写し続けてきた記録映画が注目されています。高度経済成長の裏側で、日本各地で生じていた公害や自然破壊、それとともに変化する地域の産業や風景などを映像から辿る試みが求められているのです。

このワークショップでは、鹿児島大学法文学部人文学科「表象文化論」の一環として、記録映画『屋久島からの報告』（1978）を上映し、鹿児島自然保護について考えます。

かつて屋久島では、経済的成長と引き換えに、広大な原生林が次々と伐採されていました。この作品は、その危機的状況を記録し、原生林伐採の禁止を呼びかけた映画で、島内だけでなく全国で上映されて大きな反響を呼び、自然保護運動やエコツーリズムの礎を築いたといわれています。

世界遺産に登録された環境の保全のために、どのような政治的・経済的・社会的・文化的なせめぎ合いがあったのか——屋久島の戦後史を記録映画から知ることは、鹿児島地域史だけでなく、現代日本史への理解を深めるとともに、映画というメディアが社会に果たす役割を考えるきっかけにもなるでしょう。



2018年 **10月17日** (水)

鹿児島大学法文学部1号館102教室

開場**16:45**～ 映画上映**17:00**～ 発表**18:00**～

入場無料・申込不要 | 鹿大学生・教職員限定

映画上映

『屋久島からの報告』 1978年 | 52min | カラー | 16mmフィルム (デジタル上映)

監督：久保田義久 / 脚本：横田与志 / 撮影：杉浦誠 / 音楽：ジョン・デンバー / 製作：屋久島の自然を記録する会

発表

中路武士「シネマ・アクティヴィズム——記録映画と地域表象」

【主催】科学研究費補助金 (研究課題番号：17K17963) 「地域映像とヴァナキュラー文化」

平成30年度教育研究活動 (プロジェクト等) 概算要求事項「南九州・南西諸島を舞台とした地域中核人材育成を目指す
新人文社会系教育プログラムの構築」

【協力】大山勇作 (屋久島野生植物研究所主宰) | 武田剛 (朝日新聞・鹿児島放送 屋久島駐在員)

【問合せ】鹿児島大学学術研究院法文教育学域法文学系 (法文学部人文学科) 中路武士研究室

tel/fax: 099-285-8909 e-mail: nakaji@leh.kagoshima-u.ac.jp